

でんでんくん



でんでんくん



きぬたくん



つちこちゃん



あぶみ先生

発行：きこえとことば支援センター（秋田県立聴覚支援学校内）

今年度の「特別支援学級実践研修」を終えて

特別支援教育アドバイザー 佐藤 淳



今年度は、「特別支援学級実践研修」で、難聴学級のある10校に訪問させていただきました。その際に、可能な場合には、交流学級の授業における児童生徒の様子や配慮の実際も見せていただきました。様々な情報を得ることができましたことに、感謝申し上げます。

さて、NHKの『バリバラ』という番組の中で、成人の難聴の方々が次のように話していました。「人工内耳や補聴器をしても、音の方向が分からないし、音の聞き分けもできないから、誰がしゃべってるか分からない。会議のとき、とても困る」、「まずは理解が必要だと思う。あとは環境です。教室の環境であったり、最近だったらタブレットで事前に資料をいただくとか」。

訪問校の先生方は、難聴児童生徒の様子を観察して困難な状況を推察するなど、理解に努められていましたが、それでも推察しにくいことがあるようです。例えば、上の「音の聞き分けができない」もそうですし、「話を聞きながら書くことが難しい」、「早口だと聞き取るのに疲れる。話が長くなると、あきらめてしまう」等々もあります。

令和4年9月には、「障害者の権利に関する条約」に基づく日本政府の取組について、国連の権利委員会による総括所見・改善勧告が公表されました。その中には、インクルーシブ教育に関する改善勧告もありました。

聴覚障害教育についてはインクルーシブが進んでおり、難聴学級に在籍していても交流学級で受ける授業が多いですし、通常の学級に在籍している児童生徒も少なくありません。これからも機会を捉えて、「それぞれの子どもが、授業内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けていける」よう、今年度得られた様々な情報を含め、的確な配慮につながる情報を提供してまいりたいと思います。



一年のまとめ・新年度に向けて

年度末になり、引継ぎ資料についても準備を始めている頃かと思います。今年度の取組について、本人や保護者、関係職員と振り返り、4月から順調なスタートが切れるようにしましょう。

関係職員 ⇄ 担任 ⇄ 本人 ⇄ 保護者

- ◆難聴学級、交流学級で学習する教科の選定
- ◇自立活動の時間設定
- ◆補聴器等の自己管理（学校、家庭）
- ◇座席、席替え
- ◆交流学級での聞こえ（先生の話、友達の発表）
- ◇校内放送やCD、DVD教材使用時の聞こえと理解
- ◆難聴理解学習の計画
- ◇交流学級等における補聴援助システム（ロジャー等）の使用、やり取りの工夫など

【引き継ぎ資料】〈例〉

- 個別の支援計画（合理的配慮の評価等）
- 個別の指導計画（手立ての記入等）
- 最新のオーディオグラム
（裸耳と補聴器等装用時の測定結果）
- 補聴器等のデータ
- 諸検査資料
- 面談の記録
- 医療機関とのやり取りに関わる記録

聴覚支援学校の授業実践から



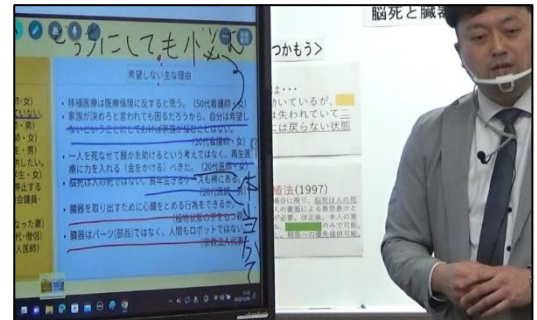
高等部3年生（普通科）「倫理」 単元名：生命の倫理

脳死・臓器提供をテーマとした映画「人魚の眠る家」をもとに、「自分なら我が子の臓器提供を希望するか」を考え、説明するという学習活動です。個別学習であっても、様々な意見に触れることで自分の考えと比較したり、抽象的な考えに発展させたりして学習目標を達成するためにはどんな工夫ができるのか、ICTを活用した本校の実践を紹介します。

指導の工夫①

電子ワークシートを使用して、生徒と教師がリアルタイムに共有する。

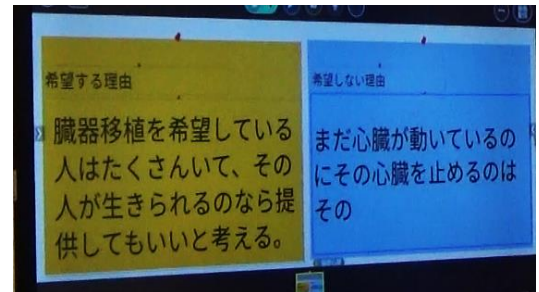
- アンダーラインやポイントを書き足すことで、課題が焦点化され思考の流れが明確になる。
- 注目する箇所が分かりやすい。



指導の工夫②

立場の異なる関係者の意見や感想などを文字資料として提示する。

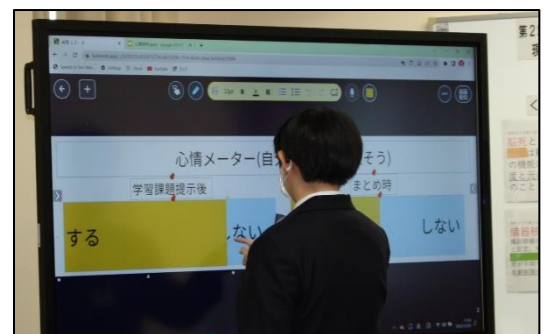
- 多様な意見に触れることで、考えを深められる。
- 自分の考えと比較し、再考に生かすことができる。



指導の工夫③

他の高校生の意見をあらかじめ準備し、心情メーターとして提示する。

- 同年代の意見を知ることができる。
- 「心情」という抽象的なものを可視化できる。



令和4年度「先輩と語る会」～県内中学生2名も参加～

12月16日（金）、「先輩と語る会」がオンラインで開催されました。

講師は、平成29年度に高等部情報デザイン科を卒業した鈴木亜未氏です。現在は「日産自動車栃木工場」で車軸部分のファイナルドライブ組立を担当しています。同じ部署のろう者の方々（鈴木氏含め7人）と一緒にダイバーシティ活動を行っていて、健聴者・ろう者双方の立場を考えながら「異常を知らせるランプの設置」等、職場の改善に取り組んだとのこと。学生の皆さんには「積極的な挨拶が周囲との距離を縮める」と、挨拶の大切さを教えてくださいました。



【生徒の感想】私は鈴木先輩の話聞いて、難聴の人が会社で働く姿のイメージをもてることができました。仕事に困ったことや、やり方が分からなくなった時があれば周りの方と意見交換することが大切だと思いました。

きこえとことば支援センター（秋田県立聴覚支援学校内）【直通携帯電話】090-8784-6302

【聴覚支援学校】〒010-1409 秋田市南ヶ丘一丁目1番1号

TEL：018-889-8572 FAX：018-889-8575 E-mail：chokaku-s_shien@akita-pref.ed.jp